

II. 実践研究の報告

7. マーヤ保育園（大阪府 東大阪市）

1. 研究テーマ

多様な保育ニーズに応じて

2. 保育園名

マーヤ保育園

3. 研究代表者

園長 山田和子

4. 保育園の所在地

大阪府東大阪市新家2丁目11番49号

(1) はじめに

マーヤ保育園は、社会福祉法人公徳会公徳学園一大正12年に創立され今日まで児童養護施設として、幸せ少ない子どもたち（保護者のいない、あるいは諸事情により保護者と一緒に生活できない児童）、終戦後は多くの戦災孤児の養護をしてきましたと併設されています。

社会が落ち着きはじめ女性の社会進出が多くなるにつれ、乳児からの保育を希望する人たちがふえてきた昭和46年1月1日、お釈迦様の母マーヤ夫人の“海よりも深く山よりも高い”母の慈愛精神をモットーに、マーヤ保育園は開設されました。当時の保育園は、6ヶ月児以降の措置という形態でしたが、これからは産休明けからの保育が必要になるから、設備を整えスタッフには看護師・栄養士を入れてやってみたら・・・とすすめられ、働く母親が安心して預けられる乳児保育に取り組むことにしました。

昭和45年に建設され46年1月、定員60名の乳児保育所（0～2歳児対象）として開園、47年には定員60名の幼児棟（3～5歳児対象）を建設、定員120名の保育所となりました。平成12年11月、建物の老朽化に伴い、これからの日本を背負う子どもの夢を大きく育み、明るく力強く生きていく為の環境作りを念頭に園舎の改築に取りかかり、平成13年7月、新たなマーヤ保育園が完成しました。近隣は勤労世帯が圧倒的に多く、共働き家庭、核家族の割合が高くなっています。又、子どもを取り巻く環境に関しては、地域の間人関係が希薄で単親家族も増加していて、地域における子育ての機能は決して良好とはいえません。従って保育園の役割が重要であり、多様な保育ニーズに応じていかなければならない状況にあります。

当保育園の定員は120名で、平成16年10月1日現在131名の0～5歳児までの園児が在籍しています。また、実施している事業としては、延長保育、障害児保育、一時保育、子育て支援事業、卒園児交流事業等があります。

(2) 延長保育

(i) 実施状況

当園での延長保育は、開園当初より保護者の送迎時間を考慮して7時から19時まで実施、保護者の職業（専門職が多い）的にまた通勤距離の関係から、定員の3分の2以上が8時間以上の保育を受けています。11時間以上保育園で生活する子どもも数人いる状況です。

通常保育終了の17時になると、延長保育を受ける子どもたちは1Fマーヤホールに集まります。ほぼ毎日同じ顔ぶれですが今日は何をして遊ぶの？と保育者に問い楽しみにしている様子も見られます。その後0～1歳児のグループと2～5歳児グループに分かれて延長保育が展開されます。

0～2歳児のグループ—1日の保育で疲れている時間帯なので、事故のないようなんびり自由に遊んで過ごせるようにしています。特に0歳児は眠くなることもあるので、布団を敷いたコーナーも作り背中をトントンしたり静かな音楽を流し安心して眠れる環境も作っています。

2～5歳児グループ—通常保育の延長としてとらえ、特別な保育計画は作成しないで子どもの人数・状況に合わせて色々な遊びを取り入れる工夫をしています。注意力が低下し心の安定度に欠けやすい時間帯でもありますので、落ち着いてくつろげるよう絵本・紙芝居の読み聞かせ・絵描き・ビデオ（日本昔話を中心）鑑賞・折り紙あそび・ブロック等を中心として、日々マンネリ化しない保育内容を心がけゆったりとした空間の中で過ごせるよう配慮しています。

(事例1)

Kくん—1歳児で始めのうちはよく泣いていましたが、延長保育にもすっかり慣れて玩具でよく遊んでいます。でも、時々思い出したようにかあちゃん、来る？」と聞いたり自分の前に帰る友達にまたね」と声をかけたり……………18時30分を過ぎると玄関で音がするたびにあつ!かあちゃんかな—と迎えが来るのを待っている姿がいじらしいです。

(事例2)

Sちゃん—3歳児ですが体格は年齢よりも小さく弱々しいタイプの子どものです。8～19時という長時間の園生活で、夕方になるとかなり疲れがみられウトウトすることもしばしばです。やっとお母さんの迎えで目を輝かせ生き生きとするのが目に見えてわかります。ほとんどが閉園過ぎでの迎えで1人になるケースが多くきつと淋しい思いをしているだろうと察しています。

(事例3)

Yくん—現在年長児で0歳より延長保育を受けています。月～金は18時30分～19時、土は17時過ぎの降園で、休むことも殆どなく園全体の中でも出席

率はトップです。長時間保育ですが、本人は嫌がっている様子もなく当たり前のことだと受け止めているようです。両親共仕事が忙しい上、子どもに対して淡々としていてじっくり関わってもらうことが少ないようで、9つ離れた15歳の姉にもあそび相手になってもらえない状況です。わかっているのに調子にのることが多く保育園で自分の気持ちを発散している節があります。6年間延長保育を受けたせいかな異年齢と接しあそぶ事は大変上手で、今は低年齢児に対して優しいお兄ちゃんです。

(ii) 保護者の・地域社会等の反応・評価

「延長保育が19時までであるので、安心して仕事ができます」本当に助かりますと喜ばれている保護者が大半ですが、中にはもう少し時間を延長して欲しい軽い食事の提供をして欲しい・・・とより以上のサービスを求める声も聞かれます。また、迎えに来た時にただいま!と明るく挨拶する保護者もいれば、早く帰るよ!遅くなっちゃった。早くしなさいと自分本意な保護者もいます。仕事であるいは私用でと遅くなる理由は様々ですが、誰も長時間保育は子どもの心情衛生にとって良くないと思っているでしょう。しかし、働く親にとって延長保育が必要不可欠なものも現実です。そして、その子どもたちの迎えを待つ気持ちや保護者の切ない思いも皆同じだと思います。保育園は、そんな子どもたちや保護者の不安を減少させ、一日の疲れが飛んでいくような笑顔で降園を見送りたいものです。

(iii) 職員の体制の協力

延長保育は通常保育の延長と考えていますので利用する子どもたちの心の安定のためにパートを雇わず常勤の保育士でローテーション（乳児担任・幼児担任・経験年数を考慮）を組んでいます。メンバーの中には必ずリーダーが1名入り突発的なことにも対応出来るような体制を整えています。

0～2歳児のグループには十分な関わりを大切にしたいと考え保育士は4～5人配置、2～5歳児グループには、人数によって1～2名の保育士が担当し子どもたちに人的・物的によるアドバイスをしています。18時30分以降は保育士2名で担当、必ずリーダーが1名最終まで居て緊急時の対応に備えています。

4月の当初は延長保育に不安を感じる子どもも多いので、リーダーを中心に職員間で話し合いを十分持ち、子ども達が安心できる場を作る工夫をしています。水分補給は大切なので栄養士に茶の準備を十分してもらっています。

1学期を終える頃になると、子どもたちも保育士も慣れ楽しく遊んで過ごせるようになります。延長保育では、通常保育にない0～5歳児の関わりの中で優しさ労りがみられ、とても和やかな雰囲気時間が過ぎていきます。担当保育士も、その日の子どもの人数や状況によりあそびの設定・環境づくりを

し、安全でかつゆったりとした保育が出来るよう 確認し合いながら努力しています。

(iv) 担当職員の意見

迎えに来ることが出来る状況にあるのにほぼ毎日閉園ギリギリに来られる保護者が数名いて子どもがかわいそうに思います。買物や夕食の準備の前に、保護者の仕事が休みの日には延長に入る前に迎えに来て欲しいものです。

また、延長保育を受けるのが同じ子どもばかりなのであそびが偏ってしまいがちなのが気になりましたが縦割り保育を実施（平成 16 年 4 月より）してからは、年長児（5 歳児）が年齢の低い子どもの面倒をみたり保育士の手伝いをすすんでしたりしてくれるようになり、延長保育がやりやすくなりました。

(3) 一時保育

(i) 実施状況

当園では、一時保育の利用の受け入れは事前登録制になっています。登録時には、認め印、保険証・乳幼児医療証のコピー、送迎者の写真（申込み用紙に貼付）を持って子どもと来園、申込み用紙や児童調査表の記入をしていただきます。申込み用紙—保護者の氏名、住所、連絡先の電話番号（家、父母の携帯番号）、児童名、児童の生年月日、性別、保護者の勤務先、利用の理由、利用開始日、利用時間を記入—と児童調査表—児童名、児童の生年月日、血液型、保険証記号・番号、住所、電話番号、保護者氏名、家族構成、自宅から園までの地図、出生時の状況、乳児期の発達状況、現在の状況、アレルギーの有無、今まで患った疾病等について記入—により家庭の状況や子どもの健康状態を把握します。料金は 0～2 歳児 1 日につき 3600 円、3 歳児 2200 円、4～5 歳児 1800 円、原則的に週 3 回以内で 9 時から 17 時の間の利用となっていますが理由によっては週 5 回の受け入れを承諾する場合があります。登録の時点で利用の日程が決まっておらずとりあえず登録だけを済ませる家庭も多いです。

9 月から 11 月までの 3 ヶ月間の利用状況は 0 歳児から 5 歳児までで 142 人でした。この期間は 2 歳児と 5 歳児の利用はなく 1 歳児と 3 歳児の利用が多かったです。利用の理由としては (a) 断続的な就労（祖父母等に協力が得られない時の利用） (b) 親の入院看護や介護 (c) 母親自身の出産入院の間 (d) 運転免許等の資格取得の通学 (e) 職探し（ハローワーク）でしたが、研究期間以外では親自身の通院・集団に慣れさせたいという理由もありました。

一時保育を利用した子どもはそれまでに集団の経験がない子どもがほとんどで、0 歳児の 4～5 ヶ月までは人見知り・場見知りが全くなく、食事・

排泄・睡眠の欲求が満たされれば機嫌良く過ごします。7～8ヶ月以降になると人見知りや環境の変化により泣きぐずります。1対1で戸外に出ると気分転換になり少し落ち着き、食事やミルクの時間になると味に慣れていない為、摂取を泣いて拒否することもあります。

さらに、母乳児の中には哺乳ビンの乳首に全く吸いついてくれない子どももいてぐずり疲れて保育者に抱かれて眠ってしまうこともあります。

1歳児では初めて親元から離れる不安感から泣いて知らない保育者との関わりも拒否し、もう行ってしまった親の後を追おうとします。時間と共に落ち着いて周りの状況がわかり始めますが食事や昼寝もしない事が多いです。中には全く抵抗なく集団に入る子どももいますが、集団経験がないので室内から勝手にとび出して行きたい所に行く為常に1対1で見守ってなければいけません。

3歳以上児では初回不安な様子を見せますが、回を重ねて登園することにより喜んで登園してきます。在園児の子どもたちが優しく迎え入れてくれ、子ども同士の間関係がすぐに出来て慣れるのも早い様です。園の生活の流れや室内やトイレの使い方等もすぐに吸収し在園児と変わりなく過ごせるようになります。ただ、食事に関しては偏食があったり少食の傾向にあります。

どの年齢児でも利用の回数が増し慣れてくれば全く問題なく過ごせますが、次回利用日が空き過ぎると慣れるまでに時間がかかります。

(ii) 保護者・地域社会等の反応・評価

まだまだ地域のすべての保育園等の施設が一時保育事業を行っているわけではないため、一時保育についての問い合わせや在園児の保護者の紹介で利用を希望する人は少なくありません。問い合わせのある件数のうち、殆どが数日後に登録に来園されている状況です。

利用した保護者の様子を見ると、預ける時は不安そうですが、降園時子どもが笑顔で帰ってくるとホッとしている様子です。用事が済めば出来るだけ早く迎えに来ていた方も「これなら安心」とばかりに17時まで時間を使って用事を済ませ迎えに来ます。子どもが慣れると、保護者の表情にも余裕が見られるようになり、又、保護者からは、「生活が規則正しくなった」とか「集団でのルールがわかるようになった」、「偏食がかなり減った」「生活面も自立が著しくなった」等、たくさんの喜びの声が聞かれています。特に0才児では、まだ首が座っていない小さな子供を預かってくれる所がない為、「受け入れてもらいとても有難い」と感謝される保護者が大半でした。

園と家庭との連絡方法として、定期的に利用する人は在園児が使用し

ている連絡帳「おいたちの記」や「連絡ノート」の購入を希望して活用されます。又、幼児クラスでは在園児の保育着—スモックや体操ズボン等—を購入する保護者がいたりして子どものことをよく考えている様子が伺えます。そのような保護者は、園の方針や園の生活リズムに合わせた生活を家庭でも送り大変協力的であります。

(iii) 職員の体制・協力

一時保育の利用者だけで縦割りの保育をしても日によっては年齢に差があり過ぎることがある為、当園では利用する子どもはその年齢のクラスに入って生活をします。その方が子どもにとってはたくさんの友達がいる為不安が紛れる様です。

受け入れの朝は、断続的な利用でない子どもについては特に詳しく健康状態や家庭での状況を聞き保育がスムーズに出来るよう保育者との連携をしっかりとしています。毎回決まった保育者が行い（これは在園児も同じです）、園生活の状態は在園児と同じ形式のデイリー表に記入、その子どもの状態がすぐに把握できるようにしています。0歳児に関しては、授乳・食事時間・睡眠生活が主な生活リズムの為、降園時にデイリー表を転記した用紙を手渡し説明しています。（中には先ほど述べた様に「おいたちの記」を購入）集団保育に慣れていない子どもについては1対1の時間を増やし少しでも早く環境に慣れるよう配慮し、その子どもが興味あることを優先的にして関わるようにしています。また慣れるまでは安心できる様同じ保育者が関わることも効果的のように思います。食事・昼寝を嫌がる時は無理強いせず、少し時間をずらしたり別室で静かに過ごせるようにします。アレルギー体質の子どもに関しては必要に応じてアレルギー除去食を行っています。9時から17時までの長時間利用者で、環境の変化により泣きぐずり食事も間食も食べず午睡などの休憩もとれない場合、肉体的・精神的・情緒的に子どもにかなり負担がかかっていると思われる場合は、保護者に連絡を取り状態を伝える体制をとっていますが、これまでそういう事例はありませんでした。

(iv) 担当職員の意見

1回限りの利用の子どもなら1対1で関わりその子どもの生活リズムに合わせて保育できますが、週に何回かの継続利用の場合はその年齢に応じた集団の中に入る方が子どもも過ごしやすと思われる保護者も子供同士の人間関係が築かれていることを望んでいる様です。慣れるまでは大変ですが慣れれば現場の流れもスムーズに運んでいますので在園児に負担がかかることなどありません。反対に、新しいお友達が増えたという感覚の様です。

食べない・飲まない・寝ないとなると体力的に心配になりますが、午後からの間食は少しでも口にしてくれることが多いので今のところ困った点は少ないです。遊びに関してはどんなことに興味があるのかつかみにくい為、安心して過ごさせるには1対1の関わり（抱っこ・おんぶ）が一番良いようです。時々在園児にも体調・機嫌により1対1の関わりが必要な場合があり手が足りなくなる時があります。また、集団を乱されるような勝手な行動があると困る時もありますが、保育者との信頼関係が築き始めていると、行動を抑えやすいのでなるべく決まった保育者が関わるようにしています。

ただ幼児クラスにおいては継続利用でない子どもは園行事などに参加していない為、子供たちの話題についていけず浮いてしまいがちです。

そこは保育者がフォローしていくようにしていますが物足りなさそうに輪の中に入っています。

保護者アンケートの集計と分析・考察

子育てに関わっているアンケートの集計と分析を、資料1・2・3にまとめてみました。それによると、保護者は30歳代が最も多く、何らかの職に就いている人が90%以上、フルタイムで仕事をしているので延長保育を利用されています。育児についての相談は、保育園を利用しているにもかかわらず、ほとんど家族や友人にしている様で、それで解決できない場合は育児書・保育園に相談するという結果が出ています。子育てについては、楽しみや喜びを感じている方が最も多いことから、マザー保育園を利用している方には子育てに不安を感じたりイライラしたりしていないように思われ安心しました。子育てへの社会の関わりについては、福祉制度を中心に社会の幅広いサービスの充実を願っている様ですが、子育てや保育園についての自由記述欄は、無記入がほとんどだったので具体的な要望が伝わらないのではないかと思います。

研究結果のまとめ

現在の社会情勢上、男女を問わずフルタイムで仕事をする人がふえ、延長保育や一時保育のニーズは高まるばかりです。また、核家族傾向により保護者の育児に伴う心理的・肉体的負担を解消できるように、子育ての支援として乳幼児の福祉の増進を図ることは大切ですが、まだまだ利用しにくい面もたくさんあるように思います。

特に、一時保育の場合、施設により受け入れの基準が違ったりしますが、原則的な利用の回数や保育時間の問題、行事の都合により利用できない日があったり、ある年齢に申込みが集中して受け入れが一杯の状態であったりと問題が発生しています。

利用を続けている保護者からは生活のリズムがついてきた」偏食が減った「生活面が自立した」等喜びの声が聞かれ、これからもサービスの充実した支援を続ける必要がある、なくてはならない事業だと思います。

今後は、保護者が利用しやすいように地域全体で一時保育事業を行なう施設を増やし、できるだけ多くの子どもを受け入れられる様子を上げると同時に保育士の人材確保が出来るよう国や自治体に助成を願いたいと思います。

おわりに

開所以来当園は 7 時から 19 時の長時間保育を実施、障害児保育・緊急一時保育、育児相談・・・と様々な保護者の要望に応じてきました。また、給食は完全給食を提供し離乳食も園の方ですすめています。30 余年間多くの保護者の方に喜んでいただき、多くの卒園生の中には、現在保育士として当園に勤めている者、また二世を当園に預けている者、ボランティアに来園する者と様々です。少子化といわれるこの時代に定員割れすることなく、多数の入園希望者が待機している当園の現状をうれしく思います。

最近、「延長保育・子育て支援・・・」と声を大にして言われていますが、私共からすれば今に始まったことではありません。0 歳児から預ける保護者は専門職の方が多く、必然的に長時間保育になります。また、子育てについての相談も、核家族社会ですから近くに相談する人がいないので、園の方にいろいろと相談にこられ対応するのが当然だと思います。

当園では、園長、主任保育士を中心に、保育士、看護師、栄養士、調理員と職種を問わず、園児が心豊かで、思いやりのある、協調性のある子どもに育つよう、日々の保育・養護に力を入れて見守っています。更に、保護者には、養育責任をしっかりとっていただくよう、常に園長、主任保育士が保護者に語りかけ、会話するよう努めています。これからも保護者とともに、子どもたちの幸せ、未来のために頑張りたいと思います。